

登録簿(鳥獣保護管理プランナー)

登録番号	P17003	
(ふりがな) 氏名	てつや たつゆき 鉄谷 龍之	
連絡先	名称	株式会社野生動物保護管理事務所 富岡出張所
	役職	—
専門分野	鳥獣保護管理プランナー	
専門とする鳥獣	<input type="checkbox"/> イノシシ <input type="checkbox"/> ニホンジカ <input type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ、ハリネズミ) <input type="checkbox"/> その他 ()	
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input type="checkbox"/> 北陸 <input type="checkbox"/> 中部 <input type="checkbox"/> 近畿 <input type="checkbox"/> 中国 <input type="checkbox"/> 四国 <input type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄	
鳥獣保護管理活動の経歴	平成20,21年度 特定外来生物アムールハリネズミの生息状況調査及び捕獲手法の検討 平成23,24年度 神奈川県鳥獣被害防除対策専門員として、地域住民、市町へ鳥獣保護管理について助言指導 平成25-28年度 神奈川県庁の専門職員として、主にニホンザル及びアライグマの計画策定や対策技術の普及等 平成31年度以降 原発事故による福島県避難地域における鳥獣対策支援	

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合には、当該利用者に関し情報の提供をします。

鳥獣保護管理プランナー

鉄谷 龍之

福島県避難地域鳥獣対策支援員
株式会社野生動物保護管理事務所

対象鳥獣

イノシシ
ニホンザル等

活動地域

福島県
避難12市町村

● 事業内容

避難12市町村地域(※)における鳥獣被害対策支援業務

※ 避難12市町村地域:東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、国から避難指示が出された地域

■ 事業の背景

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故により、福島県避難12市町村(田村市、南相馬市、川俣町、広野町、檜葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村、飯舘村)の一部では、住民不在の状況が続き、人の生活圏へイノシシ等の鳥獣が侵入した。これらの鳥獣は、住民の帰還や帰還した住民によるコミュニティ再構築の際に大きな障害となっている。

福島県避難地域鳥獣対策支援員(以下、支援員)は、鳥獣の生態及びその対策の専門知識を活かして、市町村や地域住民の行う鳥獣被害対策を支援することによる、地域コミュニティの再構築を目指して活動している。

支援員は、2018年度から2名が配置されており、2020年度からは6名への増員と事務所の開設により、体制が強化された。

■ 実施した内容

支援員には2019年度から任命され、防除柵設置指導、研修会講師、イノシシの生息状況調査等を行うとともに、第二種特定鳥獣管理計画(福島県)や福島県避難12市町村イノシシ被害対策技術マニュアル(復興庁)に基づき、計画的な鳥獣管理や被害対策を推進するため、以下のような支援を行った。

・避難12市町村鳥獣被害対策会議

市町村、福島県、復興庁等の国関係機関が出席する会議において、市町村や地域に対する支援内容やイノシシ等の生息状況調査等の活動報告を行った。

・避難12市町村担当者意見交換会

福島県との協力し、市町村担当者が実務に関する意見や情報の交換を行う場として、年間3回の意見交換会を開催した。各回、効果的な捕獲体制の構築や生息状況調査とその活用方法等のテーマを設定し、基本事項の説明や事例紹介等を行った。

・市町村二ホンザル管理事業実施計画策定支援

市町村が福島県二ホンザル管理計画に基づき定める事業実施計画の策定を支援した。打合せを重ね、生息状況の把握方法や重点的に対策を行うべき群れ等について、助言した。



図1 避難12市町村鳥獣被害対策会議

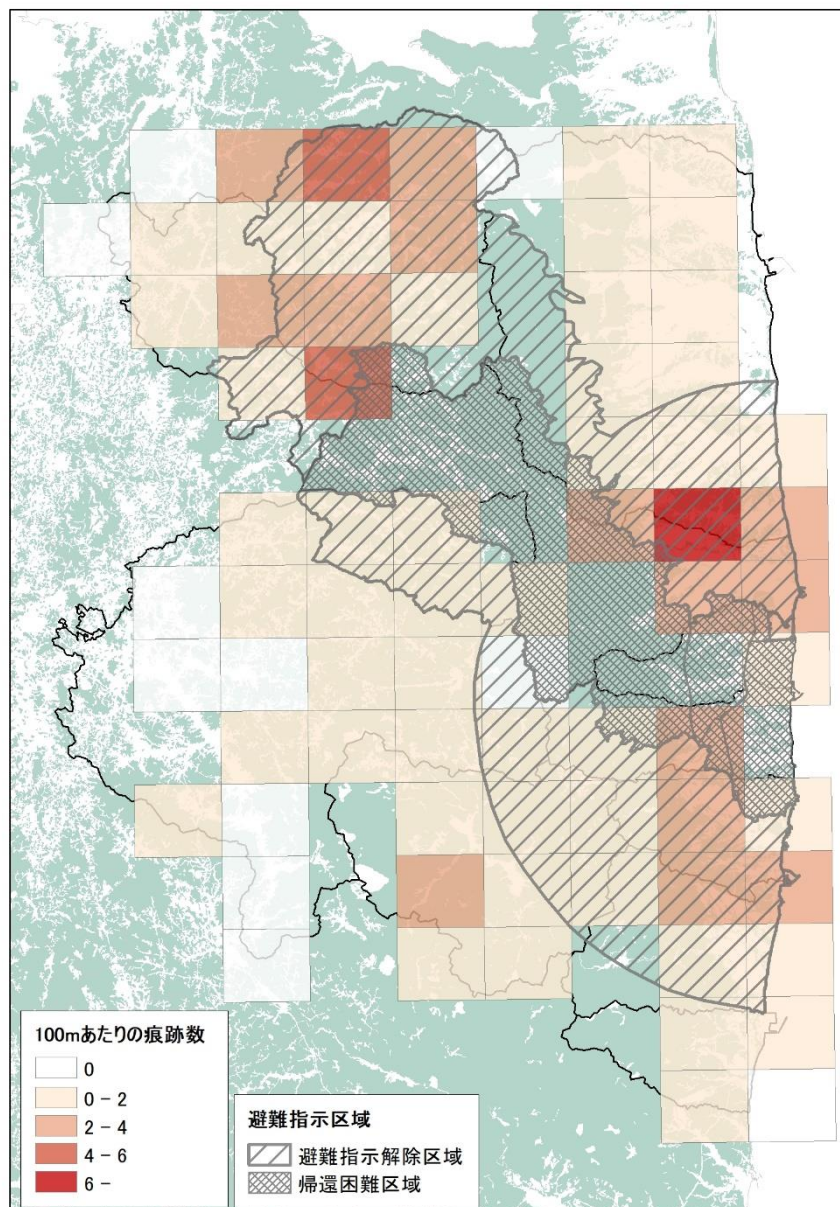


図2 2021年度における避難12市町村イノシシ痕跡調査結果（5kmメッシュ）

事業の成果

事業は5年に渡り、様々な研修会や打合せを何度も行う等、市町村や地域に対する支援により、市町村担当者の理解は進み、様々な対策事業が実施された。また、支援員等の調査により生息状況等に関するデータ(例:図2 2021年度における避難12市町村イノシシ痕跡調査結果)が蓄積された。

しかし、調査、検討、対策、見直しといった順応的管理について、全ての関係者が十分に理解し、それに基づく対策を実施しているとは言えない。鳥獣管理の考えが定着し、効果的に被害対策が推進されるためには、さらに時間が必要であるため、本事業で蓄積した生息状況等に関するデータも活用しつつ、今後も継続的な支援を行っていききたい。